2022年9月25日　　　朝　礼　拝　順　序　(午　前　10　時　半)　　　(№39)

司式　L.スパーリンク宣教師

前　　　奏　　　　　　　　　　　　奏楽　豊島慶子 姉

開　会　招　詞　　黙示録19章5節

＊賛　美　歌　　87:1（ソングシート）

全地よ神に向かい　喜びたたえよ。み名のさかえほめよ　そのほまれ歌え。

み神につげまつれ　みわざおそるべし、主はみちからをもてあだをふせたもう。

＊開　会　祈　祷

罪　の　告　白　祈祷書2　罪の告白①

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去ってください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。わたしを洗ってください。雪よりも白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜びを再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この口は、あなたの賛美を歌います。　主イエス・キリストの御名によって。アーメン。　(詩編51)

罪の赦しの宣言　　黙示録1章4b–6節

十　　　　戒　　祈祷書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。　(出エジプト20、申命記5)

＊賛　　美　　歌　　74:1–3

**1.** わが主に赦され　心安らぎ　新しき力　心に満ちて　主の道歩まん。

2. 我は主の羊 主はわが牧者 戒 を守り みあとにならい 主の道歩まん。

3. 心を尽くしてわが主を愛す　おきてを喜び　力を尽くし、主の道歩まん。

主の道　アーメン。

**公同の祈祷**　23　救済史祈祷 ④ モーセ契約

主なる神さま、あなたは、闇から光が輝き出るように命じ、海と陸とを分けさせられた、大い

なる神です。万物の主であるあなたは、ただ一人「ある」と言われる方であり、「信じる者の神となる」と宣言されたお方です。

あなたは、信仰の父祖たちとの契約を覚えて約束の民を顧み、モーセを用いて彼らをエジプトの奴隷状態から救い出し、シナイ山で契約を結び、律法と制度と儀式とを授けられました。

この贖いと契約が、イエス･キリストによって、わたしたちが罪の奴隷状態から救い出される出来事として実を結んだことを、心から感謝します。

(出エジプト3〜、ヘブライ3、「聖書」一)

献　　　　金　　　（黒）教会活動　（赤）九州伝道　　70

今献ぐるそなえものを　主よ　清めて受けたまえ　アーメン

聖　書　朗　読　　黙示録7章9–17節（新共同訳聖書、新約聖書460頁）

説　教・祈　祷　「一切の権能を授かった主イエス様」L. スパーリンク宣教師

＊ 賛　美　歌　26:1–2

**1.** 子羊をば　ほめたたうる　妙なるもののね　あめにきこゆ。

いざ御民よ、恵みの主に、さかえの冠を　ささげまつれ。

**2.** みつかいらも　うちふすまで、わが主の御きずは　てりかがやく。

いざ御民よ、すくいの主に、さかえの冠を　ささげまつれ。**アーメン**

＊ 主　の　祈　り　　祈祷書1

天にまします我らの父よ
願わくは御名をあがめさせたまえ
御国を来たらせたまえ　御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり　　アーメン。

＊ 頌　　　栄　　91:1

主をほめうたえ、その聖所にて、主を賛美せよ。主のとりでなる
大空でほめよ。強き力の御わざのゆえに　主の御名をほめよ。

＊ 祝　　　祷

後　　　奏　　（黙祷）

報　　　告　　　古澤純一長老（司会・受付　次週：門脇陽子長老）

本日　受付　１階：藤井牧子・那珂信之執事　２階：星野房子執事　／ZOOMホスト・録音：大日南悠

次週　受付　１階：若月学・森永美保執事　２階：加藤良明執事　／ZOOMホスト・録音：大日南信也

※　グループ制により、長老も１階と２階に一名ずつ加わります。

説教題：「一切の権能を授かった主イエス様」
参照：ハイデルベルク信仰問答問 Q. & A. 49-52、123、127
説教者：ローレンス·スパーリンク（キリスト改革派日本伝道会宣教師）

趣旨：黙示録から理解すべきことが何であるかについて説教して欲しいと　ある教会員に頼まれました。たくさんの解釈があり、議論もいろいろある中で、「主イエス様が常にまた永久に支配しておられる」ことが基本メッセージであると考えています。これがそうであるならば、私たちの姿勢と行動がどうあるべきかについて一緒に考えたいと思います。

中心的主張点： イエス様の再臨と最終の審判が実現するまで、信仰を保って掟を守り、忍耐強く悪しきものと戦い続けなければならない。そうすれば主と共に勝利するものとなる。

聖書箇所：ヨハネの黙示録 7 章 9－17 節(新約聖書 460 頁)
この後、わたしが見ていると、見よ、あらゆる国民、種族、民族、言葉の違う民の中から集まった、だれにも数えきれないほどの大群衆が、白い衣を身に着け、手になつめやしの枝を持ち、玉座の前と小羊の前に立って、大声でこう叫んだ。「救いは、玉座に座っておられるわたしたちの神と、／小羊とのものである。」また、天使たちは皆、玉座、長老たち、そして四つの生き物を囲んで立っていたが、玉座の前にひれ伏し、神を礼拝して、こう言った。「アーメン。賛美、栄光、知恵、感謝、／誉れ、力、威力が、／世々限りなくわたしたちの神にありますように、／アーメン。」すると、長老の一人がわたしに問いかけた。「この白い衣を着た者たちは、だれか。また、どこから来たのか。」そこで、わたしが、「わたしの主よ、それはあなたの方がご存じです」と答えると、長老はまた、わたしに言った。「彼らは大きな苦難を通って来た者で、その衣を小羊の血で洗って白くしたのである。それゆえ、彼らは神の玉座の前にいて、／昼も夜もその神殿で神に仕える。玉座に座っておられる方が、／この者たちの上に幕屋を張る。彼らは、もはや飢えることも渇くこともなく、／太陽も、どのような暑さも、／彼らを襲うことはない。玉座の中央におられる小羊が彼らの牧者となり、／命の水の泉へ導き、／神が彼らの目から涙をことごとく／ぬぐわれるからである。」
（以上が神様の御言葉です。主に感謝します。）

序説： 聖書の最後の書物　黙示録は、福音書と３つの手紙を記したイエス様の愛する弟子ヨハネがまとめた書物で、６６巻の中で一番最後に書かれたと思われています。「黙示」とあるのは、誰も知ることができなかった神様からの啓示で、文学的にある特殊なものです。旧約聖書のエゼキエル書の一部、あるいは、ダニエル書、ゼカリヤ書に似せて、象徴的な表現や、過激的な出来事を語り、歴史の書と他の預言の書とは基本的に違う性質を持っています。ただし、全体がそうなのではありません。この書物の全体的解釈について、幾つかの読み方あるいは方針がキリスト教会にあり、この幾つかの理解の仕方があることをあらかじめ確認しましょう。ただ、この中のどれかにとらわれないように注意しましょう。

　ー第１世紀の出来事の予言である。ローマ帝国のクリスチャンを迫害することとその破滅を語っていると考える読み方です。

　ー歴史の展開を語る。キリスト教会が誕生してから起こるはずの歴史全体を語っているとの読み方です。

ー終末期の流れを順次示す。現在のいわゆる福音派の諸教会の中で一番流行している考え方ですが、読んで分析することによって、ただ今起こっている出来事を語っていると考え、世の終わりが迫ってきている今日に起こってくるはずの出来事の予言であると考える読み方です。

ー善が悪にとうとう打ち勝つことを語る。他にあるかもしれませんが、最後にあげるのは私自身が採用している考え方です。多くの象徴的表現を用いて世々にわたって現れる現象を表わして、定まっている終末を期待してこれに備える呼びかけと言う中心的メッセージを語っているという読み方です。

ただ、最初に言ったように、これらの理解の複数のものを同時に抱いても、読み返すことが建徳的であることを受け止めましょう。ただ、困ることもあります。イエス様が再臨なさり、千年王国を設立しなければ、その支配がまだ実現していないと主張すれば、これは大間違いです。世の支配者が悪魔ではなく、私たちの主イエス様であることをまず確認しましょう。

1、今の世界の王権を握って、支配しておられるのは、私たちの救い主イエス様であることを幾つかの聖書箇所から確認しましょう。主の大宣教命令は有名ですが、よみがえられた主は弟子たちに現れて、「私は天においても地においても一切の権能を授かっている」と主張されます。この事実を是非理解して欲しいと使徒パウロがエフェソの信徒への手紙１章１７節以降でこう記しています。20-22 節から読みます。「神は、この力をキリストに働かせて、キリストを死者の中から復活させ、天において御自分の右の座に着かせ、すべての支配、権威、勢力、主権の上に置き、今の世ばかりでなく、来るべき世にも唱えられるあらゆる名の上に置かれました。神はまた、すべてのものをキリストの足もとに従わせ、キリストをすべてのものの上にある頭として教会にお与えになりました。」フィリピ書の２章にもイエス様のいわゆる高虚を語っています。また、黙示録の中でも、イエス様がすべてを支配しておられることを何回も語ります。１章の５節：「地上の王たちの支配者、イエス・キリスト」と呼んでいます。２章の２８節：「わたしも父からその権威を受けたのである」と言います。３章の７節、１４節、２１節もイエス様の王権を語り、１１章の１５節がこう歌っています。「この世の王国は、我らの主と、そのメシアのものとなった。主は世々限りなく統治される。」となっています。

もちろん、こうなるはずのことを旧約聖書の預言も触れて語っています。ヘブライ人への手紙１章１－４節でイエス様の素晴らしさとその権力をたたえて、幾つかの旧約聖書の引用の最後に１３節で詩篇１１０編を引用しています。イエス様もこの詩篇がご自分のことを語っていることを指摘します。詩篇の２編もキリストの権威と支配を歌っています。箇所があまりにも多くて、すべてを引用するわけにはいきません！

福音書の中で、イエス様が伝道の旅に弟子たちを送り出すにあたって、悪霊を追い出し、病を癒し、神の言葉を語る権力を分け与えて下さいます。つまり、ご自身の使節にして、ご自身に代わって神の国の実現、ご自身の支配を告げ知らせるように任命します。大宣教命令はまさにそのようなものです。

考えてみれば、全能の主、三位一体の神様はいつの時代にでも支配権を握っておられました。今度はイエス様が与えられている権能の今までの神様の権能とどこかが違っているでし

ょうか。はい、違いがあります。それは主イエス様が歴史の中で地上に現れ、十字架の死を持って罪の贖いの技を終え、死に勝利して復活し、悪魔の上に徹底的に勝利者となられました。ですから、神様の救いのご計画が新しい段階、新しい時代に大いに前進しました。ユダヤ人と異邦人の隔てを打ち壊し、すべての民をその御国の民となるように招き入れ、ご自身の支配下、ご自分の羊の群れに入り、永遠の命を保障してくださる救い主となられました。これは最初から主のご計画であったのですが、今やこの計画が歴史の中で実現したわけですから、「終わりの時」が迫ってきています。主キリストが、その御民のために王の王、主の主として着座しておられます。

2、ですが、今もイエス様の支配に反発したり、妨げたりすることもあります。場合によって、私たち主の民の不誠実があり、不従順があり、失敗することが現にあります。救いをいただきながら、自分のいわゆる「肉の思い」が残っています。心のうちに主の掟が聖霊によって記されてはいますが、しかし自分の良心の声を無視することがあります。それにしても、主の罪の赦しがあることを覚えて御名を賛美します。そして戦い続けます。

　また、迫害も実際にあり、神の国の実現を妨害しようとする勢力がまだ存在しています。幸いなことに日本では昔のような、あるいは、今も世界中に起こっている迫害がありませんが、死者崇拝や日本の神道の祭りなどに参列しない時に圧力を受け、「皆一緒」の方針に従わなければ、差別的な言動の対象になることがあります。皆様がこのことをどのように体験してこられたでしょうか。日本は地域別に状況が違います。でも間違いなく、イエス様の支配に背いている勢力であることです。

　だとすれば、次のように聴きたくなります。著者ヨハネの時代と今日はどこが違うでしょうか。イエス様の支配が地上に徐々に広まっているでしょうか。場合によってそのように見える時があります。世界宣教活動が盛んに進んで、闇の支配から解放されて光の方に移され、平和と愛のある政権に変わっていくことがあります。迫害者が悔い改めて、あるいは、追放されることがあります。でも、歴史を顧みれば、また闇の方に陥っていくこともあります。ですから、キリストの教会が本当に力強く、美しく立ち上がっていた北アフリカや、ヨロッパや、アメリカにも勢力を失って、まともな主の民を圧迫するようになる現実も見えてきます。黙示録に繰り返しがよく出てきますが、ヨハネの時代にも今日にも同じメッセージを告げてくれます。ある人たちは、世界宣教が行われて、神の愛の国が地の果てに至るまで広まって、この世が神の支配下に入り、平和になった時に、イエス様の再臨が起こると考えますが、歴史に学んで、現実をきちんと見渡すと、そうではない結論に至ると思います。イエス様ご自身も、ご自身の再臨はノアの時代のような大洪水が起こったと同じ有様になるとおっしゃってくださいました。主の支配を妨害する勢力が、たとえ、その滅んでしまう事実が迫ってきてもなお、主に反発し続けます。

　私たち主の民はたまたま次のように疑問を抱きます。主が支配しておられるならば、我らはどうしてなお苦しみに出会うのか。どうして？どうして？と、少し寂しい思いも抱きます。旧約聖書のヨブ記を読めば、どうして正しい方だったヨブがあれほどの苦しみを味わわなければならなかったのか。「どうして」とうめき声を発して神様に訴えます。黙示録を記したヨハネでさえ、迫害を受けてパトモス島で亡命者とされています。ペテロとパウロ達がすでに殉教の死を成し遂げています。私たちも様々な苦しみを味わいます。愛する者から引き離

されます。迫害もあれば、難病もあります。容易に答えが出ません。けれども、次のことが確かです。主イエス様は支配者です。私たちを追い出したり、見捨てたりすることが絶対にない私たちの良き羊飼いです。苦しみに終わりがきます。そしてそれを思い起こしさえしない幸いに移されます。これこそ黙示録が語っている通りです。

3、黙示録の与えられた目的に従って正しく読み、その意味を理解しましょう。22 章の 6ー7 節、16ー17 節にこの書物の目的がちゃんと書いてあります。これから先に起こってくる迫害があっても忠誠を保ち、落胆しないで、焦りもしないで、イエス様の救われた民らしく生きることを励ますための書物です。１章と２章に小アジアの７つの教会に宛てられた手紙の通りです。結局、主の定めた計画があり、歴史は「終末」に向かっています。その結果、あらかじめ定まった通り、子羊が永遠の王国、新しい天地創造を行い、反する勢力を滅し尽くされます。

ヨハネの見た幻の中で主がご自身に背く悪魔とその使いに様々な処罰を下して、誤った道を歩むために恐ろしい結果になることに注意を呼びかけます。最終審判の前兆と言ってもいいものです。これを受けて　その悪の道を離れて、悔い改めて救われることがありうるのです。けれども、16 章 9 節と 11 節にあるように、悔い改めるどころか、神様の御名をさらに冒涜します。こうして彼らにとうとう下る裁きに本当に値することが明瞭になります。彼らにこのような警告が与えられますが、反省もなく、主の支配を認め、受け入れ、主の救いを求めようとしないからです。

ところが、この悪の勢力が裁かれるまでの間は主の民はどうしたらよいでしょうか。黙示録の答えははっきりしています。苦しみを味わう主の民に忍耐と忠誠が求められます。13 章 10 節の後半に、「ここに、聖なる者たちの忍耐と信仰が必要である」と書いてあります。14 章 12 節もこうです。「ここに、神の掟を守り、イエスに対する信仰を守り続ける聖なる者たちの忍耐が必要である」と。全能者の支配、子羊なるキリストの支配があり、終わりまで成し遂げられますから、忍耐して主がご計画を最後まで実現に移すことを期待し、主の御心を行うように努力します、諦めずに。

その御心とはなんでしょうか。それはイエス様の救いを尚更に宣べ伝え続けることです。終末が来て、すべての苦しみが終わることがお待ち兼ねですが、けれども、イエス様が再臨を遅らせてくださることに、救いを頂戴する機会がなおありますよ　との意味になります。イエス様の権能を授かって、背きを悔い改めて、みもとに立ち返るようにと、私たちは福音を語り続けます。ペテロの第２の手紙３章９節にこうあります。「ある人たちは、遅いと考えているようですが、主は約束の実現を遅らせておられるのではありません。そうではなく、一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです。」これでよく次のことがわかります。今がまだ「救いの日」である、ということです。ですから、信仰と忍耐をちゃんと守りつつ、やはり、福音宣教に励むのです。これこそがいつまでも私たちにとって最も大切であり、義務であり、また喜びなのです。

その中で、以上話した妨害する勢力があり、悪魔の技もあります。パウロとヨハネはこれらを「反キリスト」と呼んで、これをちゃんと見分けて、これと上手に戦わなければなりません。使徒たちがまだ生きているうちに現れた、異端を布教する者たちがいました。今日にも昔ながらのものがあり、また、新しい異端もあります。自分自身が再臨のキリストである

と主張した、統一原理を起こしたブンセイメイもいました。オム真理教の麻原のようなものもいました。イエス様の再臨が何年何月に起こると主張して何回か失敗した偽預言者たち、例えば、ものみの塔・エホバの証人がいます。末日生徒イエスキリスト教会・モルモン教もあります。実に数え切れないほどの反キリストが周りにいますし、多くの場合は教会の中で生まれてしまうものがあります。これらによる被害がどれだけ大きいでしょうか。詐欺師が多い世の中です。なので、主の民はみことばと信条をよく学んで、これらの虜とならないように注意し、正統な信仰を守らなければならないと、イエス様が呼びかけてくださいます。

　そして最後に確認したいことですが、主の再臨と最終の審判がいつまでも延期にされるのではないと受け止めることです。イエス様が力を帯びて雲に乗って再び地上においでになることになっています。その時悔い改めて信じる道がなくなり、背いてきた者たちに恐ろしい「第二の死」という、永遠の裁きが施されます。逆に、主の道を守り依り頼む主の民には、どんなに苦しみに直面した中であっても、すべての涙をぬぐわれ、とこしえの喜びを、罪と不義のない新しい天地創造の中で迎え入れられます。これがただいま　主を見上げて信じるあなたがたに与えられている運命です。罪の赦し、体のよみがえり、とこしえの命を体験します。象徴ではありません。文字通り起こる主イエス様の約束です。

決論：悪が滅び永遠の御国が栄えることになっているから、ご主人が帰ってこられることを待つ　ちゃんとした忠実な僕らしく生きようではないでしょうか。目を覚ましていなさい、と主は言われます。いつ帰ってこられるかわかりませんので、いつ帰ってきても恥じ入ることがないように、苦しみがあってもこれを耐え忍び、主の道を歩み、その道を宣べ伝え続けるように励みましょう。これがいつの時代の主の民であっても私たちの使命です。

祈祷

　すべてのものを造り、今も統べ治められている主よ、あなたの力を崇め、御名を賛美いたします。昔も今も様々な苦しみや試練に遭う私たちですが、主の守りと導き、聖霊の励ましが常に与えられていることを感謝いたします。今日、これが特に使徒ヨハネに与えられた幻とお言葉を通して確認することができ、ありがとうございました。どうか、ご自分の良きご計画を最後まで実現へと運んでくださいますように。すべての忠実な主の民と共に私たちも声をあげて、「主よ、来てください」と祈って期待しています。どうかその時まで、忠誠を尽くして主に仕え続けさせてくださいように、しっかりした信仰と判断力と熱心とをお与えくださいますように。賛美、栄光、知恵、感謝、誉、力、威力が、世々限りなく私たちの神よ　あなたにありますように。御座におられる子羊、私たちの救い主なるイエス様の御名によってお祈り致します。アーメン。